

平成18年度環境技術実証モデル事業検討会
VOC処理技術拡大ワーキンググループ会合
議事要旨

1. 日時：平成19年1月26日（金）10:00～12:00
2. 場所：経団連会館 901号室
3. 議題
 - (1) 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
 - (2) 事業や対象技術への要望・意見
 - (3) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見
 - (4) その他
4. 出席検討員：坂本和彦（座長）、岩崎好陽、小淵存、土井潤一、保坂幸尚、本田城二
意見者（実証機関）：東京都環境科学研究所（平成15、16、17、18年度実証機関）
意見者（環境技術開発者）：エムワイテクノ研究所（平成15年度実証経験者）、
株式会社モリカワ（平成16年度実証経験者）、
東洋紡績株式会社（平成17、18年度実証経験者）
5. 配付資料
 - 資料1 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
 - 資料2 事業および対象技術分野に関する要望・意見資料

参考資料 中小事業所向けVOC処理技術分野実証試験要領

6. 議事

会議は公開で行われた。

- (1) 環境技術実証モデル事業（VOC処理技術分野）の概要について
 - ・事務局から資料1に基づき、本事業および本技術分野の概要について説明。
- (2) 事業や対象技術への要望・意見
 - ・事務局から資料2に基づき、本事業および本技術分野に関する要望・意見を説明
 - ・事業が周知されていないことから実証効果が低く、積極的な周知促進について検討して欲しいとの意見があった。
 - ・装置単体の実証結果だけではなく、実際現場との適合性などに関する情報など、ユーザーが関心を持っている情報提供を検討していくべきとの意見があった。また、技術の特徴をわかりやすく伝えるための工夫やデータ見方に関する情報提供も必要であるとの意見があった。
 - ・実地試験方式の実証では、実証試験実施場所に関する情報の公表が難しい場合もある

ので、場所確保の支援を検討すべきとの意見があった。

- ・ 現在の実証では技術寿命の実証ができておらず、寿命を気にかけるユーザーへの情報提供に配慮すべきであるとの意見があった。
- ・ 中小事業所に対しては、法規制や化学用語など、わかりやすい表現に努めるべきとの意見があった。

(3) 実証によるメリット等の向上についての要望・意見

- ・ 実証済み技術の購入が促進されなければ、環境技術開発者の育成、技術の発展も進みにくいことから、公的機関等が率先して実証済み技術の導入を検討すべきとの意見があった。
- ・ ユーザー企業への導入促進により環境保全を図るためにも、各自治体による規制監視・指導の徹底が望まれるとの意見があった。
- ・ 中小事業者における導入を促進するためには、環境保全効果だけでなく、VOCの回収機能を有する技術の導入など、経済的効果が必要不可欠であるとの意見があった。